

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												スマート農業推進枠	地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)	補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県等の評価	評価										
					現状						目標															実績									
					稲	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度	稲	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度										稲	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度				
舟形町農業再生協議会	18	舟形町全域	アスパラガス	アスパラガス産地の形成の推進 ① 作付面積拡大と栽培技術の向上により、農業所得の増大を目指す。 ② 長期栽培に耐える支柱と灌水設備の導入により、高収量を上げるために欠かせない土壌水分を確保し、安定した収量を確保する。	販売額の6%の増加 【6.2%の増加】	R2	1,181千円/10a	3.50	ha	35,991	kg	1,148	円/kg	R6	1,254千円/10a	3.66	ha	39,967	kg	1,148	円/kg	R6	1,434千円/10a	3.66	ha	37,308	kg	1,408	円/kg	0.8	1,148千円/10a	所得税率も申告決算書、営農計画書、出荷伝票等により販売額の増加を検証する。	-45.2%	高温干ばつと、激甚指定のあった豪雨により収量が伸びなかったが、販売単価の増大により10a当たりの販売額について取組主の目標を達成することができた。地域の単価については山形市公営施設で販売市場の取引価格による補正を行ったところ単価を達成することができた。今後は気象変動下の栽培について県農業技術普及課の指導を受けながら、品質及び生産量の確保を図り、早期目標達成に努めていく。	R7評価
真室川町農業再生協議会	14	真室川町	にら、ねぎ、枝豆、きゅうり、プロッコリー、ミニトマト	真室川支店・営農センターの移転地に隣接した集出荷場を新設することにより、地域の農家組合員の利便性もよく、安心して高品質な青果物の出荷ができる集出荷場の整備を目指す。	販売売額の10%以上の増加 【10.1%の増加】	R2	533,035千円【H23～R2平均】	54.4	ha	1,138,320	kg	468	円/kg	R6	586,812千円	64	ha	1,239,660	kg	473	円/kg	R6	571,261千円/10a	67.2	ha	1,021,851	kg	559	円/kg	550,026千円	もがみ中央農業協同組合の販売額実績により確認する。	31.6%	令和6年度は7月豪雨の影響もあり、出荷量も減少し、販売単価も低下した。にら、ねぎ、きゅうり、ミニトマトの栽培は、H23～R2平均と比較して、販売単価が向上し、目標を達成することができた。また、集出荷場の整備により、農家の利便性が向上し、出荷量も増加した。今後も、集出荷場の整備と集出荷場の利便性の向上を図り、目標達成に努めていく。	R7評価	
真室川町農業再生協議会	15	真室川町全域	露地野菜(かぼちゃ)	作業機械を導入し、かぼちゃ収穫後のつるを細断のうえほ場に還元し土づくりを行うことにより、かぼちゃ収穫後のつるの細断・収集および廃棄場までの運搬作業の省力化を図る。 これにより、7月下旬～8月下旬までの収穫に係る収穫後作業の省力化が図られ、その後の選別・出荷作業に時間を費やせるため、機度計による糖度・澱粉量の測定を行い品質に応じた販売に取組み販売額の増加を図る。 また、販売単価の高い10月中旬～11月下旬までの出荷に係る管理作業にも時間を費やせるため、10月中旬～11月下旬までの出荷に係る作付面積を拡大し販売額の増加を図る。	販売売額の6%以上の増加 【6.8%の増加】	R3	146千円/10a	9.8	ha	56,120	kg	256	円/kg	R6	156千円/10a	12.0	ha	72,000	kg	260	円/kg	R6	126千円/10a	8.9	ha	45,000	kg	251	円/kg	58千円/10a	決算書、営農計画書等により販売額の増加を検証する。	-80.0%	R6年度と比較して単価が上がったものの収量が減少した。7月25日からの豪雨により、3.9haに冠水や土流失などがあり、収量減少と販売単価低下が大きな要因となった。今後も安定的な出荷と販売額の増加を図るよう関係機関と連携しながら肥培管理についての支援を継続し、目標達成を目指す。また、目標とする栽培面積を達成するため、産地中間管理事業者の活用を通じ、産地の集約を図るよう支援を引き続き行っていく。	R7評価	

都道府県平均達成率	19.6%	総合所見	対象地区9件のうち目標達成は1件のみであった。令和6年7月の豪雨の影響で庄内地域、最上地域を中心として県内全域で被害の発生が見られ、生産量が伸び悩んだ。水稲においては、資材価格の高騰等の要因も加わり、目標とするコスト低減、販売額増加または労働生産性向上を達成できない計画があった。収量向上とコスト削減を両立できるよう指導していくとともに、農業技術普及と連携し、目標未達の原因把握とその対策の実施に対して支援を行う。 果樹、野菜においては、高温の影響も加わり、品質低下や収量の減少が見られ、販売額が伸びない計画があった。県単独事業による高温対策資材の導入や、作付面積の確保のため樹間地等の継承対策を図り、目標達成できるよう指導する。
-----------	-------	------	--